事例No.	2513
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	広島県

事例区分	行政改革

タグ	・人材確保・育成 ・組織改革 ・研修会・勉強会

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

ＤＸＳｈｉｐ（デジシップ）
ひろしまの取組
～県・市町共通の情報システム人材の活用によるＤＸの積極的な推進～

出典

地方公務員月報2023年12月号

広島県

DXShip（デジシップ）ひろしまの取組
～県・市町共通の情報システム人材の活用によるDXの積極的な推進～

広島県 DX審議官 デジタル基盤整備課

一．はじめに

広島県では、令和二年一〇月に策定した「安心▽誇り▽挑戦 ひろしまビジョン」で掲げる、「県民一人一人が『安心』の土台と『誇り』により、夢や希望に『挑戦』」できる社会の実現を目指す姿として掲げています。その実現に向けた施策横断的な視点の一つとして、「先駆的に推進するDX（デジタル・トランスフォーメーション）」を位置付けており、これまで様々な分野でDXの推進に取り組んできました。

具体的には、DXについて全県的な取組へと加速させる「DX加速プラン」を策定し、「仕事・暮らし」「地域社会」「行政」の各分野で取組を進めるため、次の三つを取組の柱としています。

（一）デジタル投資の促進
（二）人材の確保・育成の促進
（三）自律的な取組の実践を支える環境整備

二．DX推進の課題とDXShipの考え方

広島県全体のDXを効果的に進めるためには、ICT、ビジネス、行政に精通しているデジタル人材が必要です。しかし、デジタル人材は、全国的に不足しているのが実情です。このような状況の中で、各自治体個別の取組による職員の新規採用、育成だけでは、職員の質、量、また育成に費やす時間的な課題があり、人材不足が解消されません。

広島県では、デジタルに関する豊富な知識・経験を有する「外部専門人材」を民間等から登用したり、令和三年度からは「情報職」の採用を開始するなど、これら「情報システム人材」の確保を

進めてきました。一方で、求める人材の確保が単独では難しい市町もあることから、県・市町一体となった情報システム人材の採用、育成、そして共同で活用する事業運営スキームが必須となってきました。

そこで考えられたスキームが、「ＤＸＳｈｉｐ（デジシップ）ひろしま」（以下、「ＤＸＳｈｉｐ」という。）です。ＤＸＳｈｉｐでは、県・市町共通の情報システム人材を採用し、各市町へ「共通人材」として配属して事業を推進する「人材プール・シェア」を制度化しました。また、広島県全体のＤＸ事業を効率的に運営することを目的に、県・市町での情報共有、共通施策の実施、共通課題の解決等に加え、情報システム人材を含む全職員の育成プランを体系化して進めています。本月報では、令和五年度から本格的に活動を開始したＤＸＳｈｉｐの概要、現在の推進状況、今後の展開について報告します。

三．ＤＸＳｈｉｐの概要

（一）人材プール・シェア制度（図１）

ＤＸＳｈｉｐの事業スキームの中心は、情報システム人材のプール・シェア制度です。ＤＸＳｈｉｐでは、県・市町共同で情報システム人材を採用し、共通人材として登録しており、各市町のＤＸ推進体制の不足状況に応じて配属して、効率的にＤＸ事業を推進しています。

県・市町に配属する情報システム人材は、①ビジネスデザイナー、②プロジェクトマネージャー、③サービスデザイナー、④エンジニアの四つのジョブタイプに分類されていて、次に示すような業務にアサインしています。

●ＤＸプロジェクト対応

・標準システム導入に向けた対応

自治体では、令和七年度末までに、「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律」に定められた二〇の業務システムを標準化対応することが決定していて、情報システム人材は、業務システム提供ベンダーとの調整や、標準化後の運用設

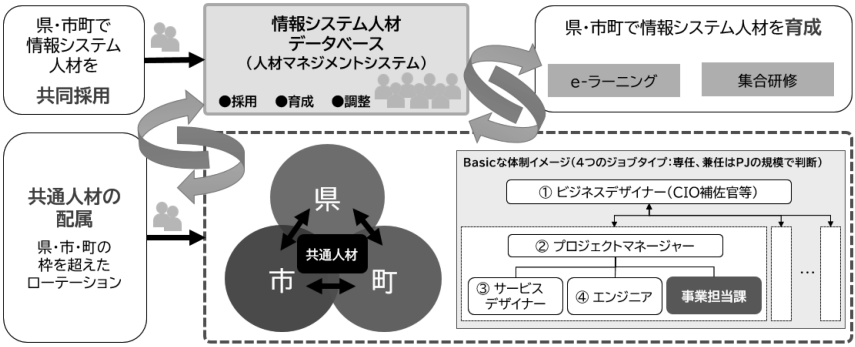


図1

計などの、プロジェクト全体のマネジメントなどを対応します。

・ＢＰＲを前提としたＤＸプロジェクトの推進

ＤＸを進めるためには、ＢＰＲ（Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｐｒｏｃｅｓｓ　Ｒｅ－ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ）を前提に、ＤＸをどこまで進めるかをコントロールする必要があり、情報システム人材は、業務設計、ＤＸプロジェクトの具体的な推進、各業務部門との調整など、多岐にわたり対応します。

・その他

デジタル田園都市交付金を活用したＤＸプロジェクトの推進や、ネットワーク、セキュリティなどの強化による働き方改革の推進など、情報システム人材が必要に応じて対応します。

●ＤＸプランの立案と推進

各市町では、明確なＤＸ推進計画がない団体や、既に作成しているＤＸ推進計画はありますが、見直しが必要な団体もあります。そこで情報システム人材の役割は、技術のトレンドや将来性などを加味しながら計画全体の立案を支援します。また、

各テーマに応じたガントチャートやＷＢＳ（Ｗｏｒｋ　Ｂｒｅａｋｄｏｗｎ　Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ）などの作成、各業務部門との調整、職員の育成支援（研修の実施）などに対応します。

●地域社会発展に向けた対応

地域社会発展に向けては、様々な施策に取り組んでいます。特に、ウェルビーイングの実現に向けては、ＤＸの推進が必要です。情報システム人材は、ＩＣＴの活用方法の提案や実装に関する設計、実際のプロジェクト推進、各ステークホルダーとの調整などを対応します。

令和五年度は、ＤＸＳｈｉｐのスキームを活用して七市町に共通人材を配属し、様々な業務を対応しています。

具体的なプロジェクトとして、以下を対応中です。

・デジタル化ビジョンの作成、業務効率化対応（ＡＩ-ＯＣＲ、ＲＰＡの導入）など
・オープンデータの活用、データ分析プラットフォームの導入など
・セキュリティポリシーの改訂、ゼロトラスト環境の構築など
・ベンダーマネジメント、職場環境改善に向けたデジタル化推進など
・地域通貨の導入・展開、ＬＩＮＥを活用した行政サービスの導入など
・業務改善活動、デジタル化推進に必要な職員の研修など
・その他（標準システム、ガバメントクラウド、次期ＬＧＷＡＮの調査・検討など）

現在、令和六年度に向けて、ＤＸＳｈｉｐのスキームの活用を希望している市町との間で、共通人材の配属に関する具体的な調整を実施しています。令和六年度には、既にＤＸＳｈｉｐのスキームを活用している市町も含めて、さらに拡大する予定です。

（二）効率的なＤＸ事業の推進

効率的にＤＸ事業を進めるためには、県・市町

での情報共有、共通施策の実施、共通課題の解決が必要となります。

そのためには、各レイヤに応じた会議・協議の場が必要で、ＤＸＳｈｉｐでは、以下を取り組んでいます。

●ＣＤＯ（Ｃｈｉｅｆ Ｄｉｇｉｔａｌ Ｏｆｆｉｃｅｒ）フォーラムの開催

ＣＤＯフォーラムは、県・各市町のＤＸ責任者間の情報共有と共通テーマについて意見交換をする場として、年三回実施しています。

今年度は、ＤＸＳｈｉｐスキームを活用した人材確保の進捗状況や各市町での対応状況の共有、また、標準システムの検討状況、オンライン化の推進状況などをテーマに意見交換を実施しています。

●担当者会議の開催

県・市町の担当者間で、共通のテーマについての意見交換、施策検討等を定期的に開催しています。

今年度は、ＣＤＯフォーラム開催に合わせて、標準システムやガバメントクラウドの検討状況、書かない窓口、ワンストップサービスの先行事例や導入状況の共有、また自治体ネットワークのあるべき姿についての情報共有、意見交換を実施しています。

●情報共有アプリケーションの提供

会議、協議での情報共有に加え、ＤＸＳｈｉｐでは、情報共有アプリケーションをクラウド型で提供しています。現在、「情報システム台帳アプリ」「ＤＸ施策／好事例アプリ」の二つのアプリケーションが稼働中です。

今後も、情報の質、鮮度を高めながら、ＤＸ推進に必要な情報の共有を強化します。

（三）人材育成計画の体系化と研修の実施（図２）

ＤＸを推進するためには、計画的な人材育成が必須です。

ＤＸＳｈｉｐでは、情報システム人材を対象とした育成計画と全職種共通の育成計画をそれぞれ体系化して取り組んでいます。

●情報システム人材の育成

情報システム人材の育成は、育成体系に沿って、オンライン（e－ラーニング）を中心に基礎的なスキルを身につけるとともに、DX事業を推進するために必須なスキル（例えば、データ利活用や、UI／UXなど）は、集合研修形式も組み合わせた形で実施しています。

さらに、情報システム人材間の交流や他の団体との交流など、積極的に取り入れています。

また、DXShipでは、人材マネジメントを効果的・効率的に進めるための「デジタルスキルシート」（図3）作成し、各自のジョブタイプとスキルレベルに合わせて、目指すべきキャリアパスが明確になるよう、情報システム人材の育成プランを体系化し、今年度から適用しています。

今後は、デジタルスキルシートで体系化した育成プランの実行と、DXプロジェクトへの対応数を増やすことにより、高度なスキルが必要な領域に対応する人材の育成、拡大を目指します。

●全職種共通の人材育成

デジタル化やDX事業を進めるためには、情報システム人材と、事業課等の行政職員（一般職）が両輪となって進めること必要です。そのための取組として、まずは、基礎的なスキルを身につける「みんなのDX研修」を提供しています。

また、IPAが認定している「ITパスポート」相当のスキルを身につけるための研修、「デジタルリテラシー向上研修」を令和五年八月から提供を開始しました。また、各階層別の研修（セミナーも含み実施）にもDXのテーマを積極的に取り入れ、県・市町の行政職員全員のスキルの底上げを図っています。

四．今後の展開

DXShipは令和五年度から開始した取組で、現在、七市町に共通人材を配属し、DX推進を担っています。

令和六年度は、共通人材の配属をさらに拡大する予定です。

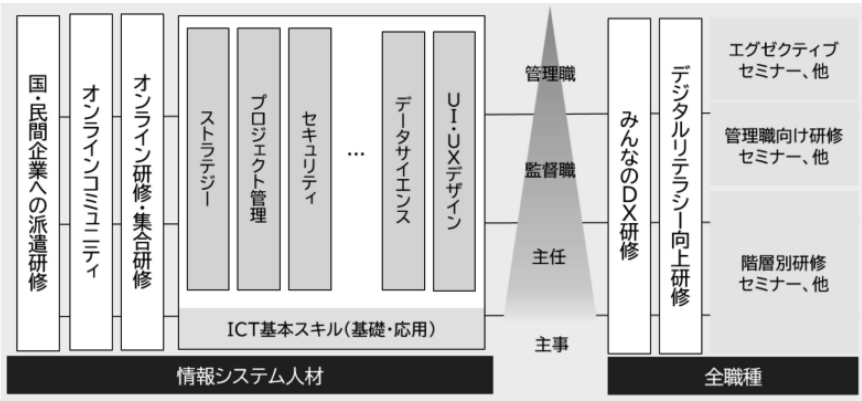


図2

No.	ジョブタイプ	①戦略・企画			②システム全般		③データ		④PM	⑤デザイン		⑥アプリ		⑦インフラ			⑧セキュリティ		⑨運用			⑩先端
		ITストラテジー	サービスデザイン	マーケティング	システムアーキテクチャ	クラウドサービス活用	データアナリティクス	データエンジニアリング	プロジェクトマネジメント	UIデザイン	UXデザイン	業務系アプリ設計開発	Webアプリ設計開発	ネットワーク設計構築	サーバ基盤設計構築	データベース設計構築	サイバーセキュリティ	システム監査	運用設計	システム管理	ユーザサポート	AIエンジニアリング
①	ビジネスデザイナー	◎	◎	◎		△			○	○	○											
②	システムアーキテクト	○	△		◎	◎			○			△	△	△	△	△	△	△	△	△		
③	データサイエンティスト		△				◎	◎	△													○
④	プロジェクトマネージャー	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△						△	△	△			
⑤	UI／UXデザイナー		△	△					△	◎	◎											
⑥	アプリケーションエンジニア				△	○			△	△	△	◎	◎				○		△			
⑦	インフラエンジニア				△	◎			△					◎	◎	◎	○		△			
⑧	セキュリティスペシャリスト				△	○			△					△	△	△	◎	◎	△			
⑨	サービスマネージャー	△	△						△								△	○	◎	◎	◎	
⑩	先端技術エンジニア								△													◎※

◎：高度な知識・スキルが必須（Lv.3相当）、○：基礎的な知識・スキルが必須（Lv.2相当）、△：基礎的な知識・スキルが望ましい（Lv.1相当）

図3

今後は、ＤＸＳｈｉｐのスキームを広島県全体に拡大するとともに、人材のプール・シェア制度を拡充させていくための、横断的なローテーションを実施していく計画です。

ＤＸＳｈｉｐの情報システム人材がキーマンとなり情報共有や共同での課題解決、施策の実施が浸透することにより、デジタルを活用した課題解決や新たなサービスの創出の機会が増え、広島県全体のＤＸが加速すると考えています。

五．終わりに

ＤＸＳｈｉｐの取組はスタートしたばかりで、まだ乗り越えなければならない問題や優先順位が高い施策の実施など、今後も県・市町のＤＸ推進状況に応じてＤＸＳｈｉｐスキームを変化、成長、発展させる必要があります。まずは、県・市町共通の情報システム人材の確保、育成、配属でＤＸＳｈｉｐの成果を見える化しながら、様々な課題の解決や施策の実施を進めます。